

令和5年度 高校生川柳 受賞作品 講評

大賞	【句】 夏休み セミはミンミン ぼく眠眠	作) 佐藤 頼 様 (豊明高等学校)
	<p>【講評】</p> <p>①夏の午後の授業や補習などを受ける状況での句なのだろうか、あるいは本当に暇で眠いのだろうか、状況は不明だが、とにかく眠い気持ちが高校生らしく表現されていて、とても素直でユーモアに富んだ句である。ミンミンと眠眠を重ねたところが、本当に眠いという気持ちをさらに豊かに表現する原動力となっている。</p> <p>②一見軽いタッチですが、高校生らしさが出ている言葉遊びを用いて注目が集まったこの句。昨今、熱中症の危険性が叫ばれ、学校には夏にエアコンがついていることが当たり前の時代になりました。昔は家でも母親から「節電！」と言われエアコンを強制的に消されたものですが、そのようなこともなくなってきたのでしょうか。「セミはミンミン」というからには、午前中または昼下がりでしょいか。誰しも休日の二度寝は、至福のひと時かと思います。審査員一同、学校での補講時間でないことを祈っています。</p>	

傑作賞	【句】 もう立てない 顔をあげると 仲間の手	作) 尾谷 心都 様 (啓明学館高等学校)
	<p>【講評】</p> <p>①友達と一緒に部活動に頑張る、または体育での長距離走の様子が目に浮かぶ。友達関係を上手く描いた作品である。</p> <p>②諦めかけたその時、仲間がいたからこそ乗り越えられた経験を限られた文字数で上手く表現されています。かけがえのない友情・絆を感じました。まさに今、青春を生きる高校生にエールを送ります。</p>	

傑作賞	【句】 美術部の スカートいつも 絵の具付き	作) 岡崎 紫音 様 (紀南高等学校)
	<p>【講評】</p> <p>①美術部で頑張る姿の反面、本当はスカートに絵の具をつけるよりも自分をもっと飾りたい年頃なんだけど…という気持ちが出ている。</p> <p>②スカートに絵の具が付くことも気にならないくらい、制作活動に没頭できることはとても素晴らしいことです。そのクリエイティブな才能を、ぜひ将来に活かしていただけると願っています。</p>	

傑作賞	【句】 目で追うと 君の視線は 他の子へ	作) 山田 瑞希 様 (紀南高等学校)
	【講評】 この句は「恋」や「愛」という言葉を使わなくても、淡い恋心や切なさを表現できていると思います。自分から想い人へ、想い人からその想い人へ、「視線」という目に見えないものが移り変わっていく様に、心臓をギュッと掴まれる気持ちになりました。	

傑作賞	【句】 ちょっとだけ 髪型変える 文化祭	作) 谷口 天音 様 (紀南高等学校)
	【講評】 ①ちょっとだけ…という表現から、普段と違う自分をみんなに少しだけ見せたいという、思春期ならではの心情をより具体的に表現している。 ②中学生の頃とまではいなくても、まだまだ高校生活は校則の縛りがあるもの。その中で、「文化祭」の日だけは、非日常を過ごせる貴重な一日なのでしょう。演劇やダンスなどの舞台発表か、はたまたまた仮装（コスプレ）などで、「ちょっとだけ」変えた髪型を、特定の誰かに気づいてほしくて詠んだ句だと感じました。	

傑作賞	【句】 あの人を 切り取るために 写真部員	作) 大沼 あい 様 (星城高等学校)
	【講評】 ①ストレートな気持ちを隠すことなく正直に表現しているところが、高校生らしく好感が持てる。 ②不純な動機と言われようが、一向に構わない。学校生活のモチベーションを上げるため、憧れの先輩か、はたまた好きなアイドルか、二度と同じ瞬間は訪れないベストショットを逃さぬよう腕を磨くことも立派な青春です。しかしながら許可なく SNS に公開することのないよう、最低限のネットリテラシーは身に付けていただければと思います。	

傑作賞	【句】 テスト明け 気温落ち込み 秋日和	作) 長谷川 隼叶 様 (星城高等学校)
	【講評】 この句の後半部分、「気温落ち込み 秋日和」だけを読むと、夏が終わりだんだん秋に近づいてきた季節の情景を詠んだ句なのですが、「テスト明け」と組み合わせることで、夏の頑張りの結果が模試や実力テストで思うように出なかったことを表しているようで、何だか励ましたくなる作品です。	

傑作賞	【句】 言語より 世界に伝わる この笑顔	作) 鶴田 宗志 様 (星城高等学校)
	【講評】 ①この句の作者が英語は得意なのか、苦手なのか、どちらであるにせよ、やっぱり人間関係はこれだよね、と感覚的な見方で表現しているところに若々しさと子どもならではの力強さを感じる句となっている。 ②これは高校生に限らず、語学に自信がない大人も勇気付けられる一句です。上手く喋れなくても、文法が間違っているてもよいのです。臆することなく笑顔で、積極的に国際交流をおこなっていきましょう！ 前向きな気持ちが伝わる、心強い作品です。	

傑作賞	【句】 自転車で 朝から前髪 さようなら	作) 三浦 優心 様 (豊明高等学校)
	【講評】 ①さようなら、という文面から、自分を飾りたいけどそうはいかない、朝だから遅刻できない、という高校生らしい微笑ましい葛藤の様子が表現されている。 ②オシャレに気を遣う年頃の、日常的な朝の光景を詠った句ではありますが、どうしても某 CM に用いられている「強風オールバック」の歌と映像が頭に焼き付いて離れなくなってしまいました。ある意味、流行を絶妙に取り入れた作品といっても過言ではないでしょう。	

傑作賞	【句】 勉強は 明日の自分が 頑張るさ	作) 塚田 正樹 様 (豊明高等学校)
	【講評】 高校生の皆さんからは、日常から切り離すことのできない「勉強」ですが、どうしてもやる気にならない気分の日もあるもの。そんな時はまず眠って、明日仕切り直そうー。そうして何日もやり過ごしてきたのかもしれませんが。最後の「さ」の一文字に、開き直りの潔さすら感じます。	